

<p>研究主題・副主題</p> <p>「主体的・創造的に学び、豊かな心でたくましくふるさとを切り拓く子どもの育成」                  ～へき地・複式教育の特性を生かし、児童生徒一人一人に                  未来に「生きる力」をはぐくむ学校・学級経営と学習指導の充実をめざして～</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

\* 分野別目標と課題

学校学級経営の 深化・充実	<p>〈目 標〉                  地域の教育課題を踏まえ、家庭・地域社会と連携し、『豊かな心』を育てる学校・学級経営の創造</p> <p>〈課題〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 確かな経営理念の確立と地域に根ざした特色ある教育計画の創造</li> <li>2 地域の伝統・文化を重視した開かれた学校・学級経営の創造</li> <li>3 地域に根ざし、家庭や地域と連携した体験活動を通して、豊かな心をはぐくむ教育活動の創造・推進</li> <li>4 近隣校や地域と連携した実践的な共同研究の推進</li> </ol>
学習指導の 深化・充実	<p>〈目 標〉                  地域に根ざした、主体的・創造的な学び合いにより「確かな学力」を育てる学習指導の創造</p> <p>〈課題〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5 個性の伸長を重視した指導計画・実践・評価の改善・充実</li> <li>6 主体性を育てる学習指導過程の改善・充実</li> <li>7 学ぶ意欲を高める指導方法の改善・充実</li> <li>8 地域に根ざした学習内容の改善・充実</li> </ol>

\* 研究の手だて

過程	年次	学校学級経営の深化・充実	学習指導の深化・充実	管内大会	全道大会
実践 研究 検証 期	平成 26 年度	1 8次長計の成果・課題を整理し、9次長計の課題及び研究内容を明確にして、各校の特色ある教育課程の編成・実施・評価・改善に努める。	1 8次長計の成果・課題を整理し、9次長計の課題及び研究内容を明確にして、一人一人の個性の伸長を重視した指導計画・実践・評価の改善に努める。		63 回 十 勝 大 会
	平成 27 年度	2 年次ごとの研究推進計画を策定する。とりわけ、地域に根ざした魅力ある教育活動の創造・発展に努める。	2 年次ごとの研究推進計画を策定する。とりわけ、指導目標の設定、学習指導過程や教材の工夫、学習活動における支援、評価方法の工夫に努める。		64 回 宗 谷 大 会
	平成 28 年度	3 学校や地域の特性を踏まえ、年次ごとに研究理論を構築し、その実践化に努め、記録を累積する。 4 近隣校・異校種学校や地域社会との共同研究体制の確立に努める。	3 年次ごとに研究理論を構築し、その実践化に努め、記録を累積する。 4 近隣校・異校種学校や地域社会との共同研究体制の確立に努める。		65 回 渡 島 大 会
実践 研究 整理 期	平成 29 年度	1 実践研究検証期の基盤に立ち、一人一人の個性を伸長し、豊かな心を育てる研究の系統的・発展的実践と記録の累計を図る。	1 実践研究検証期の基盤に立ち、一人一人の個性を伸長し、確かな学力を育てる学習指導方法の究明に努め、典型化・定型化を図る。		66 回 釧 路 大 会
	平成 30 年度	2 研究内容に即した評価方法の工夫に努める。 3 第9次長計の研究内容をまとめ、成果と課題を明らかにし、第10次長計への展望を明確にする。	2 少人数・複式指導研究に即した評価方法の工夫に努める。 3 第9次長計の研究内容をまとめ、成果と課題を明らかにし、第10次長計への展望を明確にする。		67 回 後 志 大 会

# 1 第63回十勝大会の成果と課題

## ①十勝大会分科会のまとめ

分科会 会場校	研究主題	研究内容 (要旨)	各分科会における成果と課題(要旨)	
	分野・課題		成 果	課 題
(第1分科会) 音更町立 南中音更小学校	ことばの力、どんどん発信!! ～いきいきと表現し 伝え合う南中っ子～	・系統性を意識し、年間を見通した指導  ・各単元・各授業における言語活動や表現活動の位置づけ  ・言語技術を高める指導の工夫	○年間指導計画・オンラインスタディを取り入れた計画を作成することになり、教師と子どもの思いがずれることなく学習を進めることができた。 ○理解したことを的確にかつ豊かに表現するための方法として「書く」力をも身につけることにより、児童が自らの理解度を認知し、思考を整理したり広げることができた。 ○学習リーダーの役目を明確にし、継続的に指導することで、子ども同士でめあてを確認したり話し合ったりできるようになってきた	○「練り合い」を意識して授業の中に取り入れたことが、ある程度力となって現れた。しかし、課題にせまるための「話し合い」には、まだまだ不十分な実態である。 ○本校の児童は十分に「発信」する力を身につけているので、次は「受信」する力・・・すなわち相手の意見を聞いてさらに自分の考えを高める力を身につける必要がある。
	学校・学級経営の 充実・深化2 学習指導の 充実・深化7			
(第2分科会) 士幌町立 上居辺小学校	自ら学び、いきいきと表現し合う子どもの育成 ～学ぶ意欲を高める手立ての工夫を通して～	・考える力を育て、表現する意欲をもたせる課題への取り組みせ方の工夫  ・いきいきと表現し合える交流の工夫	○個人思考をノートで行い、ホワイトボードに相手を意識して書くことがスムーズに行えるようになった。 ○友達のホワイトボードを見て、共通点や相違点など考えを捉える視点が定まってきた。 ○友達の考えを深く読み取ろうとする意識が高まり、意欲的にノートにメモすることができるようになった。 ○友達の考えを別問題で取り組み、理解を深めながらまとめにつなげることができるようになった。	○ノートに残した内容を、振り返りや個人思考の時間に、有効的に活用する工夫が必要である。 ○ホワイトボードに書く内容を絞り切れず、書く内容の量が多くなってしまいがちである。考えをまとめ、より相手に伝わるための具体的な指導指針が必要である。 ○同時間接の時間をしっかりと確保するための手立てが必要である。また、子ども同士で、学習を深めていけるようにしていく必要がある。
	学校・学級経営の 充実・深化4 学習指導の 充実・深化6・7			
(第3分科会) 上士幌町立 萩ヶ岡小学校	意欲をもって課題に取り組み、自分の考えを伝え共に学び合う子どもの育成 ～算数科における言語活動の充実と授業展開の工夫～	・意欲を引き出すための問題・課題の設定や提示の仕方の工夫、及び課題解決の方法のための手立ての工夫 ・自分の考えを適切に伝えるための表現の工夫 ・児童が発表した考えを、さらに全体で練り上げるための工夫	○問題・課題の提示の仕方工夫することで、児童の学習意欲を喚起することができた。特に、身近な問題文にしたことで場面を具体的にイメージできた。 ○既習事項の掲示物やヒントカード等を用意することで、子ども自身が見通しをもって課題解決に取り組めた。 ○ホワイトボードの書き方を指導し見本例を提示したことで、コンパクトに書くことができるようになった。 ○「何について話し合うのか?」といった明確な観点を児童に示すことで、話し合いを深めることができた。	○間接指導に移る時の教師側の指示・発問をしっかりと児童に浸透することが必要である。 ○児童の伝える力は、ホワイトボードに「書く」という点では向上している一方で、自分の考えを聞き手に向かって上手に説明する点が課題である。 ○話し合いの場面(深める場面)では、練り合いの場面が、聴かせる場面なのかといった場面意識や、相手意識・目的意識・評価意識といった5つの言語意識を教師側できちんと押さえて活動させることが必要である。
	学校・学級経営の 充実・深化2 学習指導の 充実・深化6・7			
(第4分科会) 鹿追町立 上幌内小学校	自信をもって 考えを伝え合う子どもの育成	・子どもたちの学習へ取り組む(自信をもつ) ・見通しをもって解決に取り組む(考えをもつ) ・考えを伝え、よりよい動き方を見つけ、身につけようとする(考えを伝え合う)	○少人数に合わせた教材の工夫によって、学習意欲を高めることができていた。 ☆子どもの言葉による課題づくりやまとめを行うことが、子どもたちの学習意欲を高めることにつながっていた。 ○課題解決に向けて、学年毎に考える時間を設けたことで、チームの特徴にあった解決策を考えることができた。 ☆子どもたちの活動を共感的に評価することにより、自信をもって自分の考えを伝えていた。 ○ゲーム中のレシーブの際に、互いに声を掛け合っていた。	○勝利につながるさらなるルール設定があってもよかった。 ☆「この考えの方がわかりやすい」という選択することができていたものの、考えのよさを認め合い、考えを深め合う練り合いを充実させる。
	学校・学級経営の 充実・深化1・3 学習指導の 充実・深化6・7	○体育科 ☆算数科		
(第5分科会) 芽室町立 上美生小学校	進んで人とかわかり思いを伝え合う子どもの育成	・学び合う子どもを育てる支援  ・学び合いを促す言語活動	○同時間接指導を取り入れ、個に応じた指導を充実させた。 ○子どもたちが自立して学ぶリーダー学習のシステムを取り入れ、子どもたちと学習過程・学習方法を共有することで、子どもたち同士で対話をしながら学習を進められるようになった。 ○言語活動の設定に向けて、「題材分析」を行い、子どもたちが主体的に学習に取り組めるよう、単元を貫く言語活動を工夫することができた。 ○単元の導入に、子どもたちと学習過程・学習課題を共有化し見通しをもって学習を進めることができた。	○評価基準を明らかにして指導に当たったが、十分に活用することができなかった。 ○「対話」に焦点を当てていたため、他の言語活動～例えば書く活動について等、十分に取り組むことができなかった。 ○学習課題と、それに基づく活動が、まとめに十分反映されていたとは言えなかった。 ○間接指導での話し合いは、教師の関わりのない分焦点化されない面もあり、課題として残りました。
	学校・学級経営の 充実・深化1 学習指導の 充実・深化7			

分科会 会場校	研究主題	研究内容 (要旨)	各分科会における成果と課題(要旨)	
	分野・課題		成 果	課 題
(第6分科会) 更別村立 上更別小学校	自らの学びを追求し、豊かに表現できる子どもの育成 ～「間接指導の学び」や「自主的な学び」を大切に、思いを育む子どもをめざして～	・「自ら課題にとりくむ」学びの場の設定  ・「交流すること」によって高まる学びの場の設定	○読むことが、文意を理解すること、更には、思考する力につながり教科書やワークシートにスムーズに書き込み力につながった。 ○辞典の活用やワークシート・心情メーターなどの教材教具の工夫によって、語彙力や文意理解力の高まりがみられるようになった。 ○系統表による指導や挿絵からの読み取り、学習の軌跡の提示が、子どもたちの意欲・自信につながり、学び全般に主体的な関わりが見られるようになった。	○子ども同士での話のつなげ方について、子どもたちの話し合いに教師が入るタイミングの取り方や見極め方等、話し合う力をさらに高めるための指導方法について。 ○単元を貫く言語活動について、単元の最終部分と毎時間の関わりを、どのように密接につなげていくか。 ○一単位時間では確保することが難しい、漢字や音読指導の在り方について。 ○国語科の「学び」をどのように日常生活に活かしていくか。
	学校・学級経営の 充実・深化1 学習指導の 充実・深化6・7	・学習内容や興味をもったことに「こだわる」指導の工夫  ・「こだわり」をもとに学びを深め合う指導の工夫  ・確認ドリルを活用した指導の工夫	○発達段階に応じた学習課題や学習意欲につながるような学習課題を設定することで、自分なりの考えに「こだわり」をもって、探求する活動へ取り組みめた。 ○書く活動を基本とすることで、個別の考えの共通点、相違点が明確になり、自他の考えと比べ、課題を解決する糸口となった。 ○「確認ドリル」等を活用し既習内容を明確にさせることで、子どもが解決へ向かうための手がかりをつかむことができた。	○課題を解決するための自分の考え方「こだわり」に対して、多様なアプローチで追求できる指導の工夫や意識付けが必要である。 ○基礎基本の定着への有効性については、今年度「確認ドリル」を活用した取組を中心としたが、子どもの変容や検証方法について考えていく必要がある。 ○伝え合う活動を充実させていくために、課題の設定や協力解決場面での活動の充実について、さらなる研究が必要である。
(第7分科会) 幕別町立 糠内小学校	「こだわり」につなげ「こだわり」を広げる学びの創造	・子どもの発言や思いを生かした課題設定の工夫。 ・複式形態における算数科の進め方の工夫。 ●「わたり」「ずらし」の工夫 ●ガイドの育成 ●課題解決への手順や表現方法の工夫 ・教師のかかわりあいの工夫。	○ガイド学習の進め方は、学年が上がるにつれて子どもたちに定着してきている。 ○「学習約束表」を掲示し、「学習のしつけ表」をもとに日常の学習指導に活かすことで、ノート作りや話す・聞く等の学習に対する姿勢等で効果が得られている。 ○一単位時間の流れに合わせ、「わたり・ずらし」の時間をはっきりと設定し、その中で両学年に「わたる」時間を設定することで、両学年の様子を把握できるようになった。	○低学年については、ガイド学習の準備期間と位置付け、子どもたちの実態に合わせて、少しずつガイド学習を入れていく必要がある。 ○「学習のしつけ表」「学習の約束表」については、適時振り返りながら今後も継続した取組が必要である。 ○「話し合い」の段階では、自分の考えを発表することはできるが、単に考えの発表会に終わるのではなく、考えを練り合う「話し合い」になることが課題である。
	学校・学級経営の 充実・深化2 学習指導の 充実・深化6・7	・「生きる力」をはぐくむ食育 ～学校と家庭・地域との連携を通して～	・教科に食育を取り入れた教育活動の工夫  ・外部講師の専門性を生かした指導方法の工夫  ・家庭・地域と連携した食育のあり方について	○食育計画を作成し、食育の関連性を明確にしたことで、授業の中で、既習事項をもとにした発言が多くみられる等、多くの学習や活動を結びつけることができた。 ○社会科や生活科において、ゲストティーチャーを取り入れることにより、より実感を伴った学習を進めることができた。また、課題解決の場面で子どもたちからゲストティーチャーに質問することで、理解を深めることができた。 ○教師自身が地域や企業を取材することにより、地域素材の教材化を図ることができた。
(第8分科会) 本別町立 仙美里小学校	進んで考え、思いを伝え合う子どもの育成 ～できる喜び味わわせる算数科の指導の工夫～	・「生きる力」をはぐくむ食育 ～学校と家庭・地域との連携を通して～	○「学習約束表」を掲示し、「学習のしつけ表」をもとに日常の学習指導に活かすことで、ノート作りや話す・聞く等の学習に対する姿勢等で効果が得られている。 ○一単位時間の流れに合わせ、「わたり・ずらし」の時間をはっきりと設定し、その中で両学年に「わたる」時間を設定することで、両学年の様子を把握できるようになった。	○低学年については、ガイド学習の準備期間と位置付け、子どもたちの実態に合わせて、少しずつガイド学習を入れていく必要がある。 ○「学習のしつけ表」「学習の約束表」については、適時振り返りながら今後も継続した取組が必要である。 ○「話し合い」の段階では、自分の考えを発表することはできるが、単に考えの発表会に終わるのではなく、考えを練り合う「話し合い」になることが課題である。
	学校・学級経営の 充実・深化2 学習指導の 充実・深化6・7	・「生きる力」をはぐくむ食育 ～学校と家庭・地域との連携を通して～	○食育計画を作成し、食育の関連性を明確にしたことで、授業の中で、既習事項をもとにした発言が多くみられる等、多くの学習や活動を結びつけることができた。 ○社会科や生活科において、ゲストティーチャーを取り入れることにより、より実感を伴った学習を進めることができた。また、課題解決の場面で子どもたちからゲストティーチャーに質問することで、理解を深めることができた。 ○教師自身が地域や企業を取材することにより、地域素材の教材化を図ることができた。	○体験と表現の一体化を図らなければならない。活動したことをどのように表現していくかを常に意識し、表現活動の更なる充実を図る必要がある。 ○意図的、計画的に連携を図っていくために、ゲストティーチャーとの思いや願い等の共通理解を図る必要がある。 ○各教科の「単元を貫く言語活動」を指導計画に位置付け、それぞれの関連を明らかにしていく必要がある。 ○家庭や地域との日常的な実態把握や情報交換に努め、組織的な取組にしていくことが大切である。
(第9分科会) 池田町立 高島小学校	「生きる力」をはぐくむ食育 ～学校と家庭・地域との連携を通して～	・教科に食育を取り入れた教育活動の工夫  ・外部講師の専門性を生かした指導方法の工夫  ・家庭・地域と連携した食育のあり方について	○食育計画を作成し、食育の関連性を明確にしたことで、授業の中で、既習事項をもとにした発言が多くみられる等、多くの学習や活動を結びつけることができた。 ○社会科や生活科において、ゲストティーチャーを取り入れることにより、より実感を伴った学習を進めることができた。また、課題解決の場面で子どもたちからゲストティーチャーに質問することで、理解を深めることができた。 ○教師自身が地域や企業を取材することにより、地域素材の教材化を図ることができた。	○体験と表現の一体化を図らなければならない。活動したことをどのように表現していくかを常に意識し、表現活動の更なる充実を図る必要がある。 ○意図的、計画的に連携を図っていくために、ゲストティーチャーとの思いや願い等の共通理解を図る必要がある。 ○各教科の「単元を貫く言語活動」を指導計画に位置付け、それぞれの関連を明らかにしていく必要がある。 ○家庭や地域との日常的な実態把握や情報交換に努め、組織的な取組にしていくことが大切である。
	学校・学級経営の 充実・深化2 学習指導の 充実・深化8	・「生きる力」をはぐくむ食育 ～学校と家庭・地域との連携を通して～	○食育計画を作成し、食育の関連性を明確にしたことで、授業の中で、既習事項をもとにした発言が多くみられる等、多くの学習や活動を結びつけることができた。 ○社会科や生活科において、ゲストティーチャーを取り入れることにより、より実感を伴った学習を進めることができた。また、課題解決の場面で子どもたちからゲストティーチャーに質問することで、理解を深めることができた。 ○教師自身が地域や企業を取材することにより、地域素材の教材化を図ることができた。	○体験と表現の一体化を図らなければならない。活動したことをどのように表現していくかを常に意識し、表現活動の更なる充実を図る必要がある。 ○意図的、計画的に連携を図っていくために、ゲストティーチャーとの思いや願い等の共通理解を図る必要がある。 ○各教科の「単元を貫く言語活動」を指導計画に位置付け、それぞれの関連を明らかにしていく必要がある。 ○家庭や地域との日常的な実態把握や情報交換に努め、組織的な取組にしていくことが大切である。

## ②十勝大会の成果と課題

### 成 果 学校・学級経営

#### 課題1 《確かな経営理念の確立と地域に根ざした特色ある教育計画の創造》

- ・地域素材・人材を活用することで、児童の興味・関心を高め、意義ある体験学習を行うことができた。
- ・留学生の転入による人間関係の活性化と、児童数維持に貢献している。
- ・地域の自然や人材との継続的な交流を、農園活動を通して行うことで地域の一員としてであることに気づかせることができた。

#### 課題2 《伝統や文化を重視した開かれた学校・学級経営の創造》

- ・地域文化についての理解が深まり、「技」の伝承を通して「つながり」を感じさせることができた。
- ・地域の人材から学んだり、地域の豊かな自然を教材化したりすることにより、ふるさとを愛する心が育まれている。

#### 課題3 《地域に根ざし、家庭や地域と連携した体験活動を通して、豊かな心をはぐくむ教育活動の創造・推進》

- ・地域の優れた素材である羊や自然環境に触れる体験が、子どもの感性を豊かにし、「生命の尊さ」や「自然環境の大切さ」が実感できる道德教育として価値ある活動となっている。
- ・「私たちの道德」の全校的な活用を通して、道德の時間の充実へ向けた教職員の意識が高まってきている。

#### 課題4 《近隣校や地域と連携した実践的な共同研究の推進》

- ・多くの意見を交流することで、研究を深め、普段の実践にも活かすことができた。
- ・ICT機器を活用した学習指導により、近隣校児童の考え方や意見を取り入れた学習を推進できた。

### 学 習 指 導

#### 課題5 《個性の伸長を重視した指導計画・実践・評価の改善・充実》

- ・既習事項をまとめた掲示板を貼ったり、ヒントカード・ヒントボックス等を用意することで、困った時等も子どもたち自身が方法を選択して、課題解決しようとする姿が見られた。
- ・一人学習に関する支援方法を明らかにし、個々の解決力を高め、問題解決力を向上させた。また、単元の中で個を見取り、支援し、指導と評価の一体化に努めた。
- ・個→グループ→全体と話し合う形態を取り入れることで、子どもたちは、自信をもって話し合いに参加している。話し合いによって解決する力や喜びの高まりも見えている。また、指導案に児童個々の実態を明記し、指導にあたる教師側の視点を明確にした。結果、子どものつまずきを予測したり、具体的な方策を準備したりする等の手立てをとることができた。

#### 課題6 《主体性を育てる学習指導過程の改善・充実》

- ①学習過程の工夫改善、間接指導の充実、ガイド学習の充実にかかわって
  - ・学習過程のパターン化により、見通しをもって学習活動を行えるようになった。また、同時間接指導により児童の考えを把握し交流に生かしたり、手が着かない児童を支援したりすることができた。
  - ・学習リーダーが手順表にそって学習を進めることにより、自力解決から交流まで子どもたちだけで進められるようになった。
- ②問題提示、課題設定、解決の見通しにかかわって
  - ・具体物を取り入れることにより、問題のイメージをとらえやすく課題へのつながりがスムーズであった。
  - ・単元の導入において、子どもたちと学習過程・学習課題を共有化し、見通しをもって学習を進めることができた。
- ③交流の場、話し合いの充実にかかわって
  - ・話し合いの観点を明確にすることで話し合いが深まり、学習の深化や新たな気付きへのつながった。
  - ・話し合いの充実に向けて、対話の場面を「ペア」「小集団」「全体」等学習形態を工夫することによって、子どもたちの主体的な話し合いにつながった。
  - ・異学年との交流を通して、様々な思考や考えに触れるとともに、相互評価を取り入れることで、学習意欲の向上につながった。

## 課題7《学ぶ意欲を高める指導方法の改善・充実》

### ①言語活動について

- ・計画的な言語活動の場の設定（授業・他教科・行事等）を行うことで、子どもたちの言語や表現への意識が高まった。
- ・年間、または単元を貫く言語活動の位置付けと活動内容の工夫（プレゼン・対話・パンフレット等）をすることで、言語活動の活性化と質の高い言語活動につながった。

### ②ノート指導，ワークシート・ICT機器、ホワイトボード等にかかわって

- ・系統的で統一したノート指導を継続することで、子どもたちの学習の定着と思考力・表現力の向上につながった。
- ・ICT機器，ホワイトボード等の教材・教具を積極的に活用することで，学習の効率化と子どもたちの学習意欲の向上につながった。

## 課題8《地域に根ざした学習内容の改善・充実》

- ・専門性の高い人材の効果的な活用をすることで，子どもたちに地域を愛する心や思考力・判断力が向上した。
- ・教職員が積極的な地域素材の教材化を図ることによって，身近な体験的をもとに，効果的な学習を行うことができた。

## 課題 学校・学級経営

- ・各関係機関との連携調整等，児童数の減少に伴う教職員減少で個にかかる負担が増加している。また，児童の転出入により，学級編制に不透明な要素が加わり，単複流動化への対応に苦慮している。
- ・地域の方との交流には，組織的な取組をしていくことが大切である。また，ゲストティーチャーを招く場合は，その人の思いと児童の思いが噛み合うような場の設定が必要である。
- ・今後も子どもたちにとって豊かな心を育む本物体験となるような地域の素材・人材を生かした教材開発に努めていかなければならない。
- ・道徳の時間の更なる充実のために，校内研究に位置付けた授業改善に取り組む必要がある。
- ・近隣校との研修の機会を積極的に増やし，意見の交流，情報交換をより行うことにより，互いに教師力を高め，研究を深め合う協力関係を築いていく必要がある。
- ・近隣校との日程調整や学習内容の進度を合わせるために，より連絡を密にする工夫が必要である。

## 学習指導

- ・評価規準を明らかにして指導に当たったが，十分に活用するまでには至らなかった。困り感のある子どもに対する効果的な手立て・支援の在り方が課題である。
- ・同時間授業ができるように，問題の精選や課題のもたせ方の工夫をする必要がある。また教師の有効な関わり方についても課題である。
- ・見通しをもたせるための教師側の発問がとても重要であり，これからも工夫改善を要する。
- ・知識・技能の定着活用を図るため，コンパクトで明確な課題設定・問題文の文章や条件をおさえてから自力思考に入る必要がある。
- ・自分の考えを発表することはできるが，単に考えの発表会にとどまらず，考えを練り合う「話し合い」にすることが課題である。
- ・間接指導での話し合いは，教師の関わりがない分焦点化されない面もあり，話し合いの観点を明確にする必要がある。
- ・子どもたちの主体的な活動になるように，言語活動の向上（説明・活用，伝え合い・深め合い）を図ることが大切である。
- ・学習過程を焦点化し，ノートやホワイトボードに書き込む時間を保障する等，より効果的な指導が必要である。
- ・授業においてICT機器活用の日常化，活用機会の拡大に向けて，今後とも，校内研修を行うことが重要である。

## 2 第64回宗谷大会の成果と課題

### ① 宗谷大会分科会のまとめ

分科会 会場校	研究主題 分野・課題	研究内容 (要旨)	各分科会における成果と課題(要旨)	
			成 果	課 題
(第1分科会) 猿払村立 浜鬼志別小学校	自ら学び、基礎・基本を身につける子供の育成 ～わかる・できるを実感させる授業づくりを通して～  学習指導の 深化・充実7	○学年が変わっても縦の流れを切らすことない継続の工夫をした学び方～全校で取り組む授業規律の確立や複式学級の間接指導の工夫等 ○授業づくりの工夫～見通しを持ち主体的な学びを進めるための学習過程の工夫 ○他者との関わりと評価～指導と評価の一体化・評価場面の設定・単位時間内での評価基準の明確化など	○授業実践を開き、協力校の知来別小学校と、授業づくりの充実した研修を行うことができた。 ○「浜スタ」の取組を一層充実することができた。 ○小規模校の特徴を生かし、「全校で取り組む」「6年間で育てる」という視点で授業づくりを進めることができた。	○「学び方」「複式授業の展開」について、各教室の実践を全校的な実践へと高めていく。 ○小規模地域の特性を生かし、近隣校との連携の強化や小中連携への取組を充実させる。
(第2分科会) 猿払村立 浅茅野小学校 芦野小学校	小規模校で児童を 容れさせるための集合 学習はどうあるべきか ～集団活動を通して 自己を高め連帯感を 育てる～  学校・学級経営の 深化・充実3・4	○集合学習の質を高めるために、指導組織の充実や学習意欲の向上、教育課程への位置づけを明確にしてきた。 ○今年度の重点を①コミュニケーション能力の向上を図る②取組内容を共通理解し、TTの役割を明確にすることを共通の視点とした。	○はまなす学校での集合学習を通して、2校の児童のコミュニケーション能力の実態把握とTTによる指導方法の工夫・改善を行ったことにより、児童の学習意欲が向上した。 ○両校における行事や単元を最後まで一緒に活動する中で、各学年に応じたねらいを設定し、教師集団が一致して取り組んだ。児童理解のみならず、教師集団の力量アップにつながった。 ○体育では、チームでの考える時間の確保や練習時間を持たせることで、見通しをもってチームプレイを心がけるようになった。	○今までの両校の取組を次年度につなぐ中で、小規模校同士の集合学習におけるコミュニケーション能力の更なる向上に努める必要がある。 ○各学校や児童の実態に即した指導を充実させることができるよう、分析ツールを活用したコミュニケーション能力の実態把握を基に、授業改善を一層進める必要がある。
(第3分科会) 浜頓別町立 頓別小学校	学び方を身につけ、見 通しをもって意欲的 に学ぶ子どもの育成 ～複式学級におけ る算数科授業づくり を通して～  学習指導の 深化・充実6・7	○問いと見通しを持たせる工夫～「間接指導」の充実を図る「直接指導」の工夫 ○個や共同で考える手立ての工夫～①系統的な学び方の共有化と指導②個と共同で考える手立てと指導 ○学びの振り返りの評価～①自己の学びを振り返る工夫②教師による適切な評価	○既習事項よりも飛躍した課題に出会うことで、子どもが「問い」を持ち、課題解決へ主体的に取り組むようになった。 ○問題把握の場面で解決に見通しを持たせることで、課題解決への方法が明確になり、課題解決への意欲を持たせることができた。 ○間接指導時の共同で考える場面で学習リーダーを中心とした話し合いの視点を明確にすることで、学習内容を深めることができた。 ○一人学級の自力解決の場面で、子どもの思考のヒントとなる支援方法を工夫することで、思考を広げたり深めたりすることができた。	○下位児童への具体的な手立てとして、実態に応じた小わたりや同時間接指導を行うことで、思考を深める必要がある。 ○「つかむ」段階で時間をかけすぎたため、「振り返り」の時間が少なく、子どもの学び方を適切に評価することができなかった。「つかむ」段階で、問題把握の方法を工夫する必要がある。
(第4分科会) 枝幸町立 乙忠部小学校	確かに表現できる子 どもの育成を目指し て ～国語科における言 語活動の充実を通し て～  学習指導の 深化・充実6・7	○単元を貫く言語活動と1単位時間における言語活動の設定の工夫 ○言語活動の意図の明確化、言語活動の提示の工夫	○学習のゴール、学習計画、前時までのポイントなどをわかりやすく指示・提示することで、子どもは見通しをもって活動を進めることができた。 ○前時の振り返りをする中で、既習の学びを次に生かすことができた。 ○ABワンセット方式を採ることで、学習の切替のしやすさ、机上の整理整頓、「次の学習に生かす」流れのわかりやすさなどが子どもから感じ取ることができた。	○今回の読み取りはまだ浅い。自分で読み方を習得することが大事なので、繰り返すことでポイントを絞っていく必要がある。 ○意見が出ない時に教師が関わりすぎた。どこまで見守り、どこから介入するかは線引きが必要である。
(第5分科会) 豊富町立 兜沼小中学校	主体的に学び、考えを 伝え合うことができる 子どもの育成 ～言語活動を生か した授業づくりを通 して～  学習指導の 深化・充実6・7	○問題解決的な学習の「解決努力」の場面を中心に研究を深める。少人数指導の利点を生かし、個の実態に配慮した手立てを講じる。 ○考えを持たせる・深めさせるために、「友達ノート」を活用する。自分の考えをノートに書き、考え方や求め方、工夫した点などを説明する。	○問題、課題の区別を全体で共通理解を図ることができた。子どもにわかりやすく、授業の見通しを持たせることにつながった。 ○友達ノートを活用し、話し合いをさせることは、思考力を高めるには効果的であった。 ○図や文章など、自分なりに考えを書くことができるようになった。続けることで書けるようになり、工夫ができるようになった。	○算数・数学以外への問題解決的な授業の応用を進める。 ○目標や評価にあった授業づくりを進める。(知識理解、思考・判断・表現、技能 それぞれに適した授業展開とは何か) ○単元の目標および計画、単元の中での本時の位置づけを意識した授業づくりを進める。

分科会 会場校	研究主題 分野・課題	研究内容 (要旨)	各分科会における成果と課題(要旨)	
			成 果	課 題
(第6分科会) 幌延町立 問寒別小中学校	深く考える子の育成 ～言語活動の充実 を通して～  学習指導の 深化・充実6・7	○主体的に学ぶ子どもを育てる指導計画づくり ○学びを高める学習活動の工夫	○単元を貫く言語活動を設定したことにより、子どもが一単位時間の中で目的を持ち課題解決的な学習を展開できるようになった。意欲的かつ自主的に学ぶ姿勢が身についた。 ○A Bワンセット方式の複式指導で、一単位時間の教師の関わり方に軽重をつけることができた。A学習では、直接指導を中心に授業展開し、発言を丁寧に取り上げ、練り合うことで考えの幅を広げたり深めたりすることができた。 ○一人学級で架空のクラスメートと交流させることは、学びを広げ深めることに有効であることが明らかになった。	○具体的にどの学年でどんな力をつけさせるかが明らかになっていない。系統的に力をつけていくための指導過程を整備しなければならない。 ○A Bワンセット方式の複式指導では、B学習が間接指導中心となるため目指す姿を具体的に設定し、授業のねらいを明確にしておく必要がある。A学習時にB学習のねらいや活動内容などを理解させておく必要がある。 ○指導したい内容が膨らむとAとBそれぞれの時数が増幅する。年間を通して単元の指導事項を確定し、どの単元でどんな力をつけるのか明確にして教育課程に位置づける必要がある。
(第7分科会) 礼文町立 香深井小学校	自ら考え、かかわりあい、伝え合う子どもの育成 ～楽しくわかる授業づくりを通して～ 学校・学級経営の 深化・充実4 学習指導の 深化・充実6	○学習内容への意欲を高める導入の工夫 ○個に応じた指導・支援の工夫 ○関わりあいながら活動し、多様な意見に触れる学習過程の工夫	○指導案への個別の支援計画の位置づけと実践の有効性が確認できた。 ○少人数での学びを豊かにする教材の工夫を構内外の連携によって生み出した。 ○子どもの意欲と粘り強さを引き出す指導過程を全校で追求することができた。	○学びの主体性を損なわない支援の内容と程度について共通理解と実践の追求が必要である。 ○少人数であっても学習集団内での関わりを生かす場の授業への位置づけが必要である。 ○近隣校と連携した教材研究や集合学習の積極的な実践づくりが必要である。
(第8分科会) 利尻町立 仙法志小学校	学力向上に向けた複式校における組織的取組 ～複式理科の効果的授業づくりを核として～ 学校・学級経営の 深化・充実1・4 学習指導の 深化・充実5・6・7	○カリキュラムの工夫や授業のパターン化(効果的なわたり・ずらし)、学習環境の整備などによる効果的な複式理科の授業づくりを再確認する。 ○授業における話し合いや発表を核として、学校生活全般における児童のコミュニケーション能力(聞く・話す・伝える)の向上を図る。	○指導計画に押さえなければならぬ言葉や表現を明記し、指導事項に留意した支援や手立てを考慮することができた。 ○理科室の教材・工具等の配置を内容区分に従って分類し、学年別に配置したことで、自分たちで実験装置の組み立てや後片付けができた。 ○全校学習室でのノート指導や姿勢など、全校で統一した学習規律の指導を積み重ねることができた。縦割り班での学習で、上級生の集中心力・切替の早さ・交流の進め方等が下級生の手本となった。	○課題が早く終了した児童に、補充的・発展的内容、他児童への支援など、その場に応じて判断し学習を進める力をつける必要がある。 ○日常生活の中で「聞く・話す・伝える」場面を意図的に増やし経験を更に積ませていく必要がある。 ○自分から話そうという意識の高まりは見られるが、更なる向上を目指して相手に伝わる話し方や話の聞き方を継続して指導する必要がある。「共感しながら聞く」「大事なことを落とさず聞く」のスキルを身につけさせる必要がある。 ○一人一人に応じた定着のさせ方や家庭学習の取りませ方を見つけ出す必要がある。
(第9分科会) 稚内市立 宗谷小学校	意欲的に学び、自ら表現できる子どもの育成 ～共に考え、表現し、練り合う授業づくり～  学習指導の 深化・充実6・7	○課題設定や課題提示の仕方を工夫したり授業でICT機器を効果的に活用する。(問題解決の見通しの持たせ方解決するために支援の方法の工夫) ○考えを伝え合う練り合う場の設定と、系統的な練り合いの指導(練り合いを成立させるための表現技能の訓練) ○リーダーを中心とした活動の充実	○ICT機器を色々な場面(課題提示・発表・練り合いなど)で効果的に活用することで、意欲的に学習内容に取り組むことができた。 ○表現技能の訓練に学校全体で系統性を持って取り組んだことにより、話す・聞く・話し合う力がついてきた。練り合いが発達段階に応じて深まってきた。 ○練り合いの目的をはっきりさせて取り組んだことにより、子ども達の練り合いがスムーズに進むようになった。	○目的や場面に応じたICT機器の効果的な活用。 ○練り合いを更に深めていくために、表現技能の訓練を継続して行うこと。 ○練り合う時間を、保証すること。

## ② 宗谷大会の成果と課題

### 成 果 学校・学級経営

#### 課題1 《確かな経営理念の確立と地域に根ざした特色ある教育計画の創造》

- ・行事等の活動でリーダーの役割を体験し、高学年のリーダー性や子ども同士の学び合いを高めることができた
- ・授業でのコミュニケーション能力を高める活動を意図的に行い、児童同士の表現力や調整力が高まった。
- ・地域の自然を活用し、郷土のすばらしさを学んだ。

#### 課題2 《地域の伝統や文化を重視した開かれた学校・学級経営の創造》

- ・体験を通して、地域の基幹産業への理解を深め、キャリア教育としての将来への職業的・社会的な自立に向けた自主性や連帯意識を高めることができた。
- ・ふるさと学習では、漁業共同組合などの協力を得ながら、地域産業や自然について課題意識を持って学習に取り組むことができた。
- ・地域のお年寄りとの交流で、自ら進んで奉仕する主体的な態度を育てることができた。

#### 課題3 《地域に根ざし、家庭や地域と連携した体験活動を通して、豊かな心をはぐくむ教育活動の創造・推進》

- ・地域の産業である漁業や酪農について理解を深め、地域の自然や産業の体験学習を通して環境や地元の産業について考えを深める機会になった。
- ・活動を通して、児童生徒は地域の方々から声をかけられたり、ほめられたりする機会が増えた。児童生徒も地域の方々に対して感謝の気持ちを持つなど地域とのつながりを強く感じる事ができた。

#### 課題4 《近隣校や地域と連携した実践的な共同研究の推進》

- ・定期的な交流を図ることで、児童同士の関係性が自然となり、異学年集団の授業が円滑に進めることができた。
- ・小中学校の授業を公開・参観し交流・協議することにより、各校の課題を把握し、指導の充実を図るとともに、今後の小中学校連携のあり方を模索していく場となっている。
- ・保小中の連携を通して、長期的な視野に立った児童理解と指導・支援が充実した。

### 学 習 指 導

#### 課題5 《個性の伸長を重視した指導計画・実践・評価の改善・充実》

- ・課題を明確にした体力向上の取組が良かった。
- ・理科の複式における年間指導計画の工夫が学習意欲の向上に結びついた。
- ・理科実験道具を児童自らが準備し、後片付けもできるようになった。

#### 課題6 《主体性を育てる学習指導過程の改善・充実》

- ・年間指導計画や単元構成、学級経営案・学習指導案の工夫により、組織的な授業改善・児童の主体的な学びにつながった。
- ・児童自身が見通しを持てる工夫をすることで、課題解決の意欲の持続・理解を高めることにつながった。
- ・学習形態・教具の工夫・学習手順の可視化により、児童の学ぶ意欲が高まった。
- ・A B ワンセット方式の複式指導により、じっくりと練り合うことができ、児童の考えの幅を広げたり深めたりすることができた。



### 課題7《学ぶ意欲を高める指導方法の改善・充実》

- ・ICT機器の活用により、言語活動の充実や子どもの意欲の向上をみることができた。
- ・少人数制を生かした学習で基礎学力や学習規律が定着してきた。
- ・児童の郷土への愛着、自然や産業への関心が高まった。
- ・集合体育は「主体的・創造的な学び」を実現するため、ねらい→見通し→活動→振り返りの流れを作って実践した。
- ・異学年集団における発達段階を意識した系統的な指導を行っている。
- ・観光大使活動は「発表する力がつくいい機会」と全ての児童が実感している。

### 課題8《地域に根ざした学習内容の改善・充実》

- ・「ふるさと学習」による地域への理解と愛着が高まった。
- ・「集合学習」による経験場面の増加や集団の中での成長を多く見ることができた。
- ・多人数の同年齢集団での活動を行うことができた。

- ・児童数減少により変則的な学級編制になっているため、体験学習の時間の調整や補欠体制などに苦慮した。
- ・小中高の発達段階に応じて、取り組む内容が重ならないように計画する必要がある。
- ・地域人材バンクの更なる充実と活用が必要である。
- ・地域のお年寄りの参加数減少、児童生徒数の減少、職員数の減少に伴う子にかかる負担が増加している。
- ・課題解決に向けて、調べたり質問を考えたりまとめたり発表したりといった活動を児童自らが主体的・協働的に行うことで、思考力・判断力・表現力等を一層高めていく必要がある。
- ・児童にとって豊かな心を育む貴重な体験の機会となるよう、地域の素材・人材を生かした教材開発を進めていく必要がある。
- ・交流自体に大きな意味があるが、「何のために」の目的意識をしっかり持った交流を進めていく必要がある。
- ・各学校間の時程の統一と教育課程上の位置づけをどのようにしていくか検討する必要がある。

- ・学力向上に係る目標設定等の全校的な取組が必要である。
- ・理科の複式における年間指導計画の改善が求められている。
- ・目指す子どもの姿の具体的設定や授業のねらいの明確化、学習環境整備が必要である。・年間を通した単元での指導事項を確定し、どの単元でどの力をつけるのかを明確にし、教育課程に位置づける必要がある。
- ・問題把握を重視すること、多様な児童の実態に即した支援をすること、空白の時間を作らない工夫が必要である。
- ・地域を教材とした学習は、内容を固定化させることなく、児童の興味や関心を生かしながら、張っていい・継続させていくことが課題である。
- ・発問の吟味、要点を絞ったまとめ方や発表の仕方の多様性を研究する必要がある。
- ・ICT機器を利用できる環境整備が必要である。
- ・地域の人材・教材の開発が必要である。
- ・「集合学習」に関わる時数の確保、効果的な学習を検討する必要がある。

### 3 第65回渡島大会の成果と課題

#### ① 渡島大会分科会のまとめ

分科会 会場校	研究主題	研究内容 (要旨)	各分科会における成果と課題(要旨)	
	分野・課題		成果	課題
(第1分科会) 松前町立 小島小学校	基礎・基本を身に付け、主体的に学ぶ子どもの育成 ～基礎・基本の定着を図る指導方法の工夫～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝え合いの目的の明確化</li> <li>・伝え合いの形態の工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ワークシートを活用したことによって、意欲的・積極的に「伝え合うこと」ができるようになった。</li> <li>○個に応じた支援によって自分の考えを適切に書くことができた。</li> <li>○並行読書の設定で意欲的な話し合いや楽しさを味わうことができた。</li> <li>○指導者がねらうべき力を児童に身に付けさせていく指導過程の作成ができるようになった。</li> <li>○読みの交流の場に広がりが見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「伝え合う力」を高めるための継続的・系統的な指導計画及び評価(児童同士の相互評価も含む)の工夫。</li> <li>○話し合いの「必要性」「目的」を明確にした課題設定の仕方</li> <li>○「話し合い」のテーマ設定、視点の与え方、発問の工夫。</li> <li>○他領域と関連付けた授業の工夫。</li> <li>○話し合いの場面で、友達の発言をつなげていく「型」の共有化。</li> </ul>
	学校・学級経営の 充実・深化3 学習指導の 充実・深化6・7			
(第2分科会) 知内町立 涌元小学校	ともに学び、磨き合い、高め合う子の育成を図る学習指導の工夫 ～主体的・協働的な学びを育む授業を通して～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・間接指導充実のための直接指導の工夫</li> <li>・学び方の確立と定着</li> <li>・問題解決的な学習の工夫</li> <li>・ノート指導の工夫</li> <li>・教育機器の効果的活用</li> <li>・リーダー学習や話し合い活動の充実</li> <li>・指導計画の改善</li> <li>・個に応じた支援と評価の工夫</li> <li>・自己評価と相互評価の工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○流れのわかるような板書づくりをし学習環境を整えることができた。</li> <li>○発表に生かせるノート作りを指導することで、主体的な学びにつながった。</li> <li>○ICTの活用によって異学年で同時に「つかむ」から学習が展開でき、時間の確保ができた。</li> <li>○ICTの活用で協働的な学びの姿が見られた。</li> <li>○「話し合いの進め方カード」の活用でリーダー中心の話し合い活動が活発になった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目的を明確にしたノート作りの学校全体としての指導計画づくり。</li> <li>○ICT等教育機器の効果的活用。</li> <li>○「話し合わせるノート指導」を確立し、少人数でも深まりのある話し合いを目指す。</li> </ul>
	学校・学級経営の 充実・深化2 学習指導の 充実・深化7			
(第3分科会) 北斗市立 島川小学校	自分の思いや考えを深め、豊かに表現する子どもの育成 ～言語活動の充実を図り、少人数学級における的確な支援を通して～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの学習状況の的確な把握の工夫</li> <li>・子どもの思考を深め、広げる教師の働きかけの工夫</li> <li>・評価規準を基にした具体的な指導の手立て工夫</li> <li>・見通しをもたせる学習課題の提示と課題に即した学習のまとめ</li> <li>・子どもの思いや考えを深め広げる、子どもの反応の取り上げ方の工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○支援計画やノートへの赤ペン記入によって個に応じた支援ができた。</li> <li>○単元を通して指導したい言語活動を明確化したことによって学習内容が焦点化された。</li> <li>○指導過程の明確化によって、話し合いが充実した。</li> <li>○課題解決の手立てとして協働的な形態が定着した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題(発問)を精査し、交流・話し合いを深める時間を多くする。</li> <li>○授業内容によって、直接・間接指導の比重を大きく分ける。</li> <li>○音読範囲の焦点化やグループでの音読、範読等工夫が必要。</li> <li>○交流後の話し合い、深め合いの充実。</li> <li>○課題作りでは、手立てと視点も指導して課題の質を高める必要がある。</li> </ul>
	学校・学級経営の 充実・深化3 学習指導の 充実・深化7			
(第4分科会) 七飯町立 峠下小学校	進んで自分の考えをもち、伝え合い高め合う子どもの育成 ～意欲を高める学習課程の工夫を通して～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課程の提示【峠下サイクル】 課題をつかむ→考える→確かめる→広げる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「峠下サイクル」の定着によって、学習に対する高い意欲や見やすく振り返りが可能なノートづくりにつながった。</li> <li>○協働的な場の設定によって、協力する意識の高まりや互いに高めあう力が身につけてきた。</li> <li>○ICT機器を活用しわかりやすく説明するなどの工夫が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習過程について、算数以外の教科への応用等異なる工夫が必要である。</li> <li>○協働的な学びが「認め合いの場面」「高め合う場面」「練り合いの場面」「相互補充の場面」でどのような形態がふさわしいのかはっきりさせる必要がある。</li> <li>○ICT機器の効果的な使用方法の研究を深める必要がある。また、アクティブ・ラーニングの視点を考慮した授業への生かし方の研究も必要である。</li> </ul>
	学校・学級経営の 充実・深化2 学習指導の 充実・深化6			
(第5分科会) 七飯町立 大沼小学校	主体的に学び、ともに考え、伝え合う子の育成 ～教科・領域における言語活動の充実を通して～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見通しをもち筋道を立てて考えるための時間の確保の工夫</li> <li>・学習の考えを整理し、理解を深めるための言語活動の工夫</li> <li>・表現活動の場の充実</li> <li>・活発に表現できる環境を整える手立ての工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多様なワークシートや学習の進め方を事前に示すことによって、見通しをもち、自分の考えを深めていくための手立てを持つことができた。</li> <li>○お互いの考えを交流することによって学習をさらに深めていく対話的な学びとなった。</li> <li>○ICT機器の積極的な活用によって表現方法が広がり、表現力の高まりと学習への意欲につながった。</li> <li>○机間巡視中の賞賛が学習意欲の高まりとなり次の活動への意識づけとなった。</li> <li>○TT学習での、事前打ち合わせや学習途中での状況確認によって個々への適切な指導ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業の導入部分で行っている言語活動についてのアクティビティは、より効果的な活動となるように、校内での共通理解と学年に応じた内容を考えていく必要がある。</li> <li>○「話し方・聞き方名人」の活用に加え、ポイントを絞ってメモをさせる取り組みや、自分の考えをノートに書くことの習慣化への取組をしていくことで、より言語の力を高めていきたい。</li> <li>○学習活動の言語活動の中心となる発表の場面では、お互いの意見交換がより活発にでき、伝え合う力をさらにつけていけるようにする。</li> </ul>
	学校・学級経営の 充実・深化2 学習指導の 充実・深化6			

分科会 会場校	研究主題	研究内容 (要旨)	各分科会における成果と課題(要旨)	
	分野・課題		成 果	課 題
(第6分科会) 森町立 濁川小学校	自分の考えをもって主体的に学ぶ子供の育成～国語科における「読む力」を高める授業づくりを通して～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的な学びをうながす、指導過程の工夫</li> <li>・読む力を高める手立ての工夫</li> <li>・子どもの実態把握と学びを育てる学習環境の工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大きなずらしの取り入れ、前時でのめあて提示、間接指導時のリーダー学習、書く活動の位置付けによって主体的な学びを促すことができた。</li> <li>○「読む」活動の充実によって、読み取りの深まりが見られた。</li> <li>○読解力診断テストや各種アンケート調査の実施分析によって個への支援の方向性を考える一助となった。</li> <li>○朝のチャレンジ学習によって、子どもの読む力が着実に高まった。</li> <li>○言語環境を工夫することによって、「読む力」を身に付けさせることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習ルールの徹底した指導と、その際の適切な評価が必要である。</li> <li>○ずらしの時間配分等の工夫は、子どもの反応予測や一人学びのさせ方等最適な指導を模索していく必要がある。</li> <li>○リーダー学習での話し合いは、意見の処理の仕方にも工夫が必要である。</li> <li>○一人学びでの考えの交流や見取るための時間配分等効果的な一人学びの仕方の検証が必要である。</li> <li>○書かせるためには、書くという訓練や発問内容との関係を整理する必要がある。</li> <li>○朝のチャレンジ学習での個に応じた目標の設定が必要である。</li> </ul>
	学校・学級経営の充実・深化1 学習指導の充実・深化6・7			
(第7分科会) 八雲町立 東野小学校	自ら考え、自らの学びを高めていく子どもの育成～算数科における学び方の指導の工夫を通して～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びの見通しを持たせる工夫</li> <li>・ふり返りを位置づけた学習過程の工夫</li> <li>・ノート指導の工夫(基本編)</li> <li>・ノート指導の工夫(応用編)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自力解決前に既習内容からヒントを得られないかを考えさせることによって思考の幅が広がった。</li> <li>○ノートの基本指導を継続することによって、ルールが定着した。</li> <li>○ノートづくりの基本ポイントを確認し、交換会を実施することによって、継続しようとする意識の高まりや自分のノートづくりへの活用が見られた。</li> <li>○交流の場でノートの活用が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本校研究における「見通し」の言葉の整理。</li> <li>○ふり返りは、子どもたちにとってどう生かされているのかを検証する。</li> <li>○ノートルーブリックを使った児童の自己評価や相互評価の実践。</li> <li>○「きれいなノート」より「使えるノート」を目指した活動の工夫。</li> <li>○自分の考えを交流する時の「話す・聞く」指導の日常的実践が必要である。</li> </ul>
	学校・学級経営の充実・深化2・3 学習指導の充実・深化6			
(第8分科会) 八雲町立 野田生小学校	自分の考えをもち、進んで伝え合う子どもの育成～算数科の基礎・基本となる学習を通して～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達段階別目指すリーダー学習像</li> <li>・考え方がわかりやすくまとまるノート指導の充実</li> <li>・伝え合う活動を目指した発達段階別話し合い活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習常規の確立によって、学習意欲の高まりが見られた。</li> <li>○ノート指導の統一によって、丁寧なノートづくりができるようになった。</li> <li>○場にあった算数的活動を行ったことで、伝えたいという意欲の高まりや自信を持たせることができた。</li> <li>○発達段階に応じた振り返りの場を設けることにより、学習の定着や、他者と自分との相違点や良さに気付くことができた。</li> <li>○学習過程の見直しと徹底、学習リーダーの指導強化によって、児童が見通しを持って主体的に授業を進めることができた。</li> <li>○話し合い活動を繰り返し行うことで、相手意識が高まった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見通しをもたせることは大切であるが、「根拠を見つけていく力」をつけていくことも必要である。</li> <li>○一方の学年は見通しもしっかりもたせ、もう一方の学年は見通しの時間を減らす等の工夫をし、ある程度の視点だけの見通しで思考を育てる時間も必要である。</li> <li>○文書記述の振り返り活動では、自らの学習を振り返って、どんな力が身についたのかを自覚して、次の学びにつなげることとなる振り返りを目指したい。</li> <li>○ノート指導の他教科、家庭学習への生かし方。</li> <li>○筆算の繰り上がりを書く場所等細かい点まで学校全体で統一する必要がある。</li> </ul>
	学校・学級経営の充実・深化2 学習指導の充実・深化5			

## ②渡島大会の成果と課題

### 成 果 学校・学級経営

#### 課題1《確かな経営理念の確立と地域に根ざした特色ある教育計画の創造を図る》

- ・「〇〇小授業スタイル」を確立することができ、子どもたちの学びやすい環境を整えることができた。
- ・ICT機器を活用した「表現の場」を工夫することによって、表現力の高まりと学習への意欲につながった。
- ・地域学習として、地域の主な産業を取り上げ教育課程に位置付けることができた。
- ・放課後学習を利用したチャレンジタイムの中で目標を設定することによって、体力の向上を図ることができた。

#### 課題2《伝統や文化を重視した開かれた学校・学級経営の創造を図る。》

- ・多くの学校行事を地域、PTA、学校の三者で協力して実施し、開かれた学校を目指したことによって、今まで以上に参加者が多くなり、地域の皆様の学校への関心が高まった。
- ・教育課程の中に「体験学習」を位置付けることによって、継続性のある連携が推進できるようになった。

#### 課題3《地域に根ざし、家庭や地域と連携した体験活動を通して、豊かな心をはぐくむ教育活動の創造・推進を図る。》

- ・地域と連携した行事を行うことによって、人とのふれあいを広げ、豊かな情操を養うと共に地域について見直したり、考えたりする機会となった。
- ・交通安全に関する活動を地域と共に実施することによって、思いやりの心を育てることができた。

#### 課題4《近隣校や地域と連携した実践的な共同研究の推進を図る。》

- ・町内各校との授業交流や研修を積み重ねたり、町として一体感のある教育を進めることで、教員の指導力向上を図ることができた。
- ・大規模校との交流活動によって、コミュニケーション能力の育成が図られた。

### 学 習 指 導

#### 課題5《個性の伸長を重視した指導計画・実践・評価の改善・充実を図る。》

- ・個に応じた支援ができるように、個別の支援計画を立てて授業に望んでいた。また、集団に対しての評価基準ではなく、一人一人の評価基準を明確にしていくことで個に応じた指導ができた。
- ・各種テストやアンケート調査の客観的な資料や分析結果を指導計画に位置付けることで適切な指導をすることができた。
- ・机間指導の工夫（評価・助言・励ましの言葉等）により、実態把握や学習意欲の喚起を行うことで効果的な指導ができた。

#### 課題6《主体性を育てる学習指導過程の改善・充実を図る。》

- ・単元全体や本時の学習などの指導過程を掲示することで子どもたちが見通しをもって取り組むことができた。
- ・間接指導で学習リーダーが中心となり進めることで言語活動が一層図られた。
- ・学びの連続性を図るための教室掲示の工夫や単元の始めの学習計画の掲示を行う

ことで意欲的に取り組むことができた。

#### 課題7《学ぶ意欲を高める指導方法の改善・充実を図る。》

- ・話し合いのスキルを活用することで話し合い活動の意欲の高まりが見られた。
- ・学習規律を含め、形式や方法を統一することにより、落ち着いた雰囲気です授業に集中して取り組むことができ、学習効果が上がり確実な定着につながった。
- ・教育機器の効果的な活用をすることにより、協同的な学びの姿が見られた。

#### 課題8《地域に根ざした学習内容の改善・充実を図る。》

- ・地域人材や専門家の話を聞くことで課題意識を強くもち、地域に興味・関心をもつことができた。
- ・地域との連携をより深めるために、地域人材や素材を発掘し、教育課程への意欲的な位置づけを図った。

### 課題 学校・学級経営

- ・言語活動の充実を図り、他教科や行事等への波及も考えていかなければならない。
- ・各教科と総合的な学習の時間における学びの連続性を考える必要がある。

### 学習指導

- ・個人差・学年差を考慮した指導方法や指導体制を系統的に見直していく必要がある。
- ・複式授業で両学年の授業内容によって直接指導・間接指導の比重が大きく変わってくることも考えられるので指導計画を見直す必要がある。
- ・ノートルーブリックなど間接指導時の見取りを評価する方法をさらに考えていく必要がある。
- ・ノート指導が定着してきたが、思考の整理や広がりをもたせるためにも、ノートに書く目的を明確にしていかなければならない。
- ・「身につけさせたい力」を明確にし、学びを深めるためにも学習課程や発問の質を上げる研修の必要がある。
- ・話し合い場面での、考えを広げたり深めたりする活動の工夫が必要である。
- ・「きれいなノート」から「使えるノート（話し合えるノート・考えをまとめるノートなど）」へと改善していく必要がある。
- ・授業の中に、書画カメラやタブレット等を効果的に活用するICTの使用方法を研修する必要がある。
- ・地域にある異校種間連携や交流学习等による指導計画の工夫や見直しを図り、新たな学習内容の在り方を検討していく必要がある。
- ・子どもたちが課題を見つけ、さらに主体的に追求できるように地域の教育環境を整えていかなければならない。

#### 4 第66回釧路大会の成果と課題

##### ① 釧路大会分科会のまとめ

分科会 会場校	研究主題 分野・課題	研究内容 (要旨)	各分科会における成果と課題(要旨)	
			成 果	課 題
(第1分科会) 釧路町立 昆布森小学校	学び方を身につけ、生き生きと活動する子ども の育成 ～自ら考え、交流し、互いに高め合う複式授業を通して～  学校・学級経営の 充実・深化4 学習指導の 充実・深化6・7	<b>学び方を身につけるために</b> ・学習内容の焦点化と課題設定の工夫 ・見通しをもち、学びの自立を目指す授業の工夫 <b>生き生きと活動するために</b> ・共に学ぶことのよさを実感できる授業の工夫 ・学びのつながりを意識した授業の工夫	○学習の過程を明確にし、リーダーが中心となって進める学習を繰り返したことで、子どもたちは、学習の進め方について迷うことがなく、安心して学ぶことができた。 ○交流の方法(意見のつなぎ方)や目的(深める交流、広げる交流)を子どもたちと共有したことで自分の考えと相手の考えを比較するだけでなく、検討するという視点をもつようになった。 ○ICT(実物投影機)を活用し、ノートを軸に学びを進めることができ、話し方やノートの書き方に相手意識が見られた。	●子供達の深い学びにつなげるための学習課題とは?という視点を持ち、交流に必要感がもてるような課題設定を考える必要がある。 ●広げる交流、深める交流についてどうおさえ、子供達とどうまとめていくかについて、今後研究を深めていく必要がある。 ●学びを整理したり、交流して深まったことを実感するために、学びの振り返りや問い返しをする必要がある。
(第2分科会) 厚岸町立 太田小学校	主体的に学び深く考える子の育成 ～複式学級での国語科・文学教材の効果的な指導を通して～  学校・学級経営の 充実・深化4 学習指導の 充実・深化6・7	<b>主体的に学ぶ子を育てる指導計画の工夫</b> ・学年(発達段階)に応じた見方 ・考え方・表し方の明確化 ・教材の特質と育てたい力に即した言語活動の位置付け、主体的な学びを引き出す単元構成 <b>学びを深める学習形態の工夫</b> ・学年(発達段階)に応じた、学び方の系統性の確立、児童の思考の流れに沿って学びを高める場の工夫 ・学びを高めるための教師の働きかけ	○「見方・考え方・表し方」を精選し各学習に位置付けたことで、児童が思考を深めることができた。 ○言語活動の構造図を作成したことで、言語活動の位置づけが明確になり、読むことを主体とした学習の展開ができた。 ○「課題の自力解決の場」から「学習結果の確認の場」までの学習の流れが定着し、児童が見通しを持って進んで学習し話し合うことができた。	●児童の実態や願い、指導事項との関わりがより明確になる言語活動の設定の工夫が必要である。 ●第三次までの学習の過程において、各単位時間における学習が全て学びのゴールに結びついていることを児童が認識をすることで、学習がつながり、深まっていく。そのつながりをわかりやすく児童に示すまとめ方やその提示の工夫が必要である。 ●「考えを交流し話し合う場」において主体的な話し合いを進めるためには、教師の効果的な支援が必要になる。そのため、「わたり・ずらし」や「同時間接」のより効果的な活用が必要である。
(第3分科会) 浜中町立 散布小中学校	自分の考えを持ち、進んで学び合う授業の構築  学校・学級経営の 充実・深化1 学習指導の 充実・深化6	<b>小学校</b> ・算数科における言語活動を明確にし、それを生かした授業づくり ・学年別コミュニケーション能力の明確化とその能力を発揮した学び合いの場の工夫 <b>中学校</b> ・「学びの深まり」の定義の明確化とそれを実現するための「学び合い」の工夫 ・本校の実態に合わせた既存の「技法」の改善・工夫と「意欲」「コミュニケーション能力」「思考力」の検証	○小学校と中学校で連携して研究を進め、小中9年間を通して子どもを育てるという意識向上が見られている。 ○小中共通で、「コミュニケーション能力表」「発表の約束」を作成し、9年間で子どもを育てる具体的手立てを整備することができた。 ○「Q-簡便分類法」による動因効果の測定を小中 共通で行うことで、子どもの関心意欲を把握することができた。	●「学び合い」がグループ活動やペア学習など狭い意味での捉えとなってしまう、目的化してしまう場合があるため、ねらいをしっかりと持ち授業を考えていく必要がある。 ●小中を通して、子どもにどのような力をつけ、どのような子どもを育てていくのか、今まで以上の連携が大切である。 ●本校の授業の基本をしっかりと踏まえた、日常実践の積上げが大切となる。
(第4分科会) 標茶町立 沼幌小学校	自ら考え、粘り強く取り組む子どもの育成 ～自力解決のための態度や能力を高める個に応じた指導のあり方～  学校・学級経営の 充実・深化1 学習指導の 充実・深化6	・課題把握の段階での「個に応じた」適切な指導(手立て)のあり方 ・自力解決の深化・補充、振り返りの場の工夫のあり方 ・学力向上にむけて全校的な学習規律のあり方(学習指導の沼幌スタンダードの確立、沼幌ノート指導の継続、家庭学習の取り組み方指導、読書タイムの充実)	○学習内容や用語を確認し、課題に対しての見通しを持たせることが、自力解決につながるということが確認できた。 ○具体的な目指す子供像を持つことで、子供の理解をスモールステップで確認することができることがわかった。 ○具体物や半具体物、ワークシート、や写真、ICTを活用することで、より自力で解決することの助けとなるということが確認できた。	●複式における比重を5:5ではなく、単元のずらしや、他教科との組み合わせを考え、軽重をつけていくことも必要となる。 ●交流の場は、自力解決した後だけでなく、解決の途中であっても、つまづきを共有することが深化となると考えられるため、場の設定を工夫する必要がある。 ●個に応じた指導も必要だが、考え方の発表の仕方は、学年の発達段階に即して設定し、身につけさせていく必要がある。

分科会 会場校	研究主題	研究内容 (要旨)	各分科会における成果と課題(要旨)	
	分野・課題		成果	課題
(第5分科会) 標茶町立 塘路小中学校	自らの学びを拓き、生き生きと学び通す子どもの育成 ～子どもが予想を立て、解決の方法を探る展開の工夫～  学校・学級経営の 充実・深化3 学習指導の 充実・深化6・7	・学習への意欲を高めることで、主体的な取り組みにつなげる課題設定 ・自力解決に向けた見通しのもとせ方 ・自力で解いたと子どもが思える支援のあり方 ・授業全体でも子どもが見通しをもって主体的に活動できるような、学習のスタイルの検討と確立 ・自分の生活に活かせる学習としてとらえ、解決への意欲が高まる問題の提示の工夫、授業のゴールを明確にイメージできる課題設定の工夫 ・課題設定の場でのICTの使い方	○どのようなスキルが身につくのか、単元を通した課題設定を行うことで、子ども達の意欲が喚起され、主体的な学びにつながった。 ○授業の中で、子ども自ら課題を考える実践を積み重ねてきたことで、要点を捉えた課題作りができるようになり、それが子どもの主体的に学ぶ姿につながっていった。 ○他者意識を持った活動はICTを活用した説明や発表において、より有効に作用することが確認された。	●課題を解決する見通しを持たせすぎると、子どもはすぐに答えてしまい、手応えや達成感を感じられなくなってしまう。子どもにとって丁度良い見通しの持たせ方が課題である。 ●子どもが自分の間違いに気づき、やり直しをする学習の流れでは、複式の学習形態では予定通りにわたれず、もう片方の学年の直接指導に予定通り入れないこともあった。その授業形態との折り合いの付け方に課題が残った。 ●子供の思考が停滞した際、その子に合わせた適切な支援方法のあり方について、日々実践から、常により良いものを模索していかなければならない。
(第6分科会) 弟子屈町立 奥春別小学校 (会場校) 和琴小学校 美留和小学校	自ら学び、豊かな心でたくましく郷土を切り拓く子どもの育成 ～かかわり合いながら、学ぶ楽しさを味わえる「集合学習」のあり方を求めて～  学習指導の 充実・深化8	<b>子どもによる学び合いが生まれる『全習』『分習』の工夫</b> ・『全習』と『分習』のねらいをはっきりさせて授業作り。 ・低学年ではグループの固定化。中・高学年では、さまざまな友だちとの交流。 <b>一人一人のよさを伸長する協力教授の工夫</b> ・T1, T2(T3・T4)の役割を明確にして、『全習』の指導にあたる。 ・T1を中心に、子どもたちが自分の学習活動をふり返るための「自己評価シート」を作成し、活用する。 ・「見取り表」は評価項目をしぼり記号を使った評価を中心とする	○全習と分習で教師がねらいを明確にし具体的なめざす子供の姿を共有することで、子供自身が目的意識をもてるようになり意欲の高まりや変容が見られた。 ○ねらいと全習と分習のつながりを明確化し教師が共有することで、全習で課題を見つけて分習で克服し、再び全習で実践するという流れが生まれ、学習が深まった。 ○ねらいの明確化と共有により、それぞれの授業者が、個に対して、グループに対してのかかわりが適切になされていた。	●効果が高まる教師の役割を検討する必要がある。例「指示を板書する」、「時間の目安を伝える」「ふり返る準備をする」「モデルを示す」「実演する」など。 ●学年の段階に応じて、さらには少人数のよさを生かして一人一人に応じたねらいや支援を追求できる学習指導案について検討する必要がある。 ●個人カルテの作成などにより、変化や成長を押さえながら個に応じた指導と評価を充実させる必要がある。
(第7分科会) 鶴居町立 下幌呂小学校	ともに学び合い、一人ひとりが学びを実感する子どもの育成 ～学びの連続性を生かした授業づくりを通して～  学校・学級経営の 充実・深化1 学習指導の 充実・深化6	・連続性のある単元計画の工夫【単元全体の構成】 ・単元を通して学習が展開していくような課題の設定 ・今までに学んだことと見通しをつなぐ場面の設定 ・生活や他の学習へのつながりを感じられる授業の工夫 ・ふり返りの場の設定と内容・方法の工夫 ・子ども一人一人が根拠をもって交流できるような教具やワークシートなどの工夫 ・子どもが積極的に考えを伝え合えるような環境の設定 ・学習リーダーを中心として積極的に交流を行えるような手立ての工夫 ・協働的に課題に向き合い追求できるような場の設定	○振り返りを計画的に設定し、継続的に取り組むことで、児童が生活と結びつけて考え、次に生かそうとする態度が育っていた。また、振り返りを生かすことで自分の考えを表現したり、授業の中で学びや友だちとの学び合いの良さを実感したりすることにつながっていた。 ○ペア交流や全体交流の中で学習リーダーを中心に、授業を進めていこうとしている姿が見られた。 ○学習リーダーの姿を学年ごとに学校全体で共有することで、学習リーダーを中心とした授業が協働的に行われていた。	●振り返りに時間が取られるので視点を絞ったり、方法を工夫したりする必要がある。 ●振り返りを書かせればなしにせず、それを生かす工夫も重要である。 ●何のための振り返りなのかを明確にし、まとめや学習内容に結びつく振り返りをより意識してとりくめるとよい。 ●課題追求の場面における協働的な学習のあり方について、主体的に児童が進めていくのは良いが、目的や場面によっては教師の介入が必要であり、それを見極めることが重要である。 ●交流の場が、答え合わせになってしまっている場面があった。交流の目的や方法を検討し、より学び合える交流を目指していくと良い。
(第8分科会) 白糠町立 茶路小中学校	かかわり合いながら学びを深め、自分の考えを表現できる子どもの育成 ～9年間の系統性を意識した指導を通して～  学校・学級経営の 充実・深化4 学習指導の 充実・深化6・7	・子どもが見通しをもち、間接指導に入ることができるようにするための直接指導の在り方 ・思考の過程を振り返る活動の工夫 ・多様な考えを引き出す活動を充実させた交流場面の設定 ・相手を意識して自分の思いや考えを伝える場の設定 ・課題とまとめや、思考の流れが分かるノート指導の工夫	○問題提示から課題提示までをスムーズに行うことで、思考する時間交流する時間を十分に確保することができた。既習事項を確認することで子供が安心して課題に取り組むことができた。 ○教師の適切な問い返しや確認をすることにより、子供が黒板で説明する際、色分けしたり表への書き込みをしたりと相手の理解を促す方法を工夫するようになるなど、相手意識をもつことができるようになった。ヒントの活用や教科書のキャラクターの考え方にふれさせることで、子供の思考を広げたり深めたりすることができた。	●思考や説明の準備に時間がかかる児童への支援の仕方が必要である。 ●ノートや図、ホワイトボードなどの作業量、個人思考の時間確保が必要である。 ●言葉で説明する際のノートの書き方と用い方について、より深める必要がある。 ●説明することに対する必要感の持たせ方が必要である。

## ② 釧路大会の成果と課題

### 成 果 学校・学級経営

#### 課題1《確かな経営理念の確立と地域に根ざした特色ある教育計画の創造》

- ・行事や様々な活動を通して、高学年のリーダー性や子供同士の学び合いを高めることができた。
- ・コミュニケーション能力を高める活動を意図的・計画的に仕組むことによって、子供同士がお互いに交流したり、教え合ったりする場面が設定され、学習意欲が高くなる傾向が見られた。

#### 課題2《地域の伝統や文化を重視した開かれた学校・学級経営の創造》

- ・地域の伝統や文化や自然を重視した開かれた学校教育活動をすることによって、子供たちは、自然保護への関心が高まり、動植物を大切に、環境保護への意識が高まった。さらに、自分たちの役割を考えて、見通しをもって活動に取り組む子も増えている。
- ・様々な活動を通して、地域の方々と触れ合うことで、日常的に会話できない方とも交流ができ、コミュニケーション能力が高まってきている。

#### 課題3《地域に根ざし、家庭や地域と連携した体験活動を通して、豊かな心をはぐくむ教育活動の創造・推進》

- ・子供たちは、自分達の住む地域の自然や文化に触れ、その豊かさを実感するとともに、地域の課題についても考える姿が見られるようになった。
- ・地域と連動した様々な活動を通して、児童生徒一人一人が地域の一員であるという自覚が高まるとともに、お世話になった方々への感謝の気持ちをもつことができた。

#### 課題4《近隣校や地域と連携した実践的な共同研究の推進》

- ・ブロックごとの交流では、同じ学年の児童との学習を通して、相手意識を発揮しながら進んで関わる姿が見られるほか、認め合う雰囲気が高まりが見られる。
- ・近隣校や他校種との関わる回数を多くすることによって、町内外や管内の対外的な発表会の場面でも、子供たちが落ち着いた態度で参加することができた。

### 学 習 指 導

#### 課題5《個性の伸長を重視した指導計画・実践・評価の改善・充実》

- ・年間を通した単元での指導事項を確定し、どの単元でどの力をつけるのかを明確化し教育課程へ位置づけすることで、基礎的・基本的な学習内容の定着を図ることができた。
- ・小学校6年間・小中9年間を見据えた目指す子供像や授業像を校内や連携する校種間で情報共有化し、組織的な取組を図ることで、基礎的・基本的な学習内容の定着を図ることができた。

#### 課題6《主体性を育てる学習指導過程の改善・充実》

- ・年間指導計画や単元構成、学級経営案・学習指導案の工夫により、組織的な授業改善や子供たちの主体的な学びにつながった。
- ・学習指導計画において子供自身が見通しを持てる工夫をすることで、課題解決の意欲の持続・理解を高めることにつながった。
- ・学習形態・教具の工夫・学習手順の可視化により、子供の主体的な学ぶ力が高まった。
- ・課題意識をもって学習課題の提示や振り返り等の学習過程を計画的に継続することで、その充実を図ることによって、子供が主体的に学習に取り組みようになった。
- ・根拠を明確にして発表するなどの表現力の育成を図ることで、生き生きと発表する子供の姿が見られた。



課題7《学ぶ意欲を高める指導方法の改善・充実》

- ・ねらいの明確化と共有化するなど、個に応じた指導方法の改善・充実を図ることで、学ぶ意欲が高まった。
- ・言語活動を重視した授業改善により、自分の考えを明確にでき、学ぶ意欲が高まった。
- ・ICT機器やノート・教材教具の効果的な活用により、言語活動の充実や子供の意欲の向上をみることができた。

課題8《地域に根ざした学習内容の改善・充実》

- ・「集合学習」による経験場面の増加や集団の中での成長を多く見ることができた。
- ・多人数の同年齢集団での活動を行うことができた。

- ・児童数及び世帯数が減少する中での効果的・効率的な教育活動の改善充実の必要がある。
- ・学校が地域に求められている人材を育成していく為に、地域との連携を一層深めていく必要がある。
- ・個に応じた指導の充実と確かな学力の育成が必要である
- ・「小中9年間で児童生徒をどう育てていくのか」の小中学校の教職員の連携と意識の継承が必要である。
- ・地域の教育力を生かし、自立した子供を育てるための学習を一層推進したいと考えるが、地域住民の高齢化、通学してくる児童の減少など課題は多い。その中で活動内容等の精査していく必要がある。
- ・地域との連携を教育課程に位置づけ、見通しをもった教育活動を進めると共に、地域人材やその道の専門家の確保を進める必要がある。
- ・学級の規模や子供たちの実態に応じ、複式の特性を生かした指導方法の工夫が必要。
- ・「考えを交流し話し合う場」において主体的な話し合いを進めるためには、教師の効果的な支援が必要になる。そのため、「わたり・ずらし」や「同時間接」のより効果的な活用が必要である。
- ・主体的に学ぶ力の定着が図られてきたが、さらに定着が図られることで、子供たちに学習を委ねることができることから、学びの自立をさらにすすめるための学習過程の工夫・改善を考えていく必要がある。
- ・主体的な取り組みを促す交流場面を実態に即して、明確化し、学年発達段階に応じて充実させる必要がある。
- ・何のための振り返りなのかを明確にし、まとめや学習内容に結びつく振り返りをより意識して取り組める必要がある。
- ・ICT機器を利用できる環境整備が必要である。
- ・学年差や個人差に配慮した指導計画の改善・充実をさらに図り、系統性や順次性を深めた実践研究を進めていく必要がある。
  - ・地域のもつ豊かな教育力や教材を生かした実践研究をさらに深め、教育課程への位置付けや体験的な学習や表現力の育成とも結びつけて、より一層進めていく必要がある。
- ・一人一人のよさや可能性を伸ばすための共感的な評価と支援的な指導を一体化した研究をさらに進めていく必要がある。
- ・集合学習において、教師間の役割や相互交流等、少人数のよさを生かして一人一人に応じたねらいや支援を追求できる学習指導案について検討する必要がある。